

ドローン産業 南相馬から

本県進出のスペース社・金田社長

「実験しやすい環境」

南相馬市に進出した小型無人機「ドローン」の開発メーカー「スペースエンターテインメントラボトリー」の金田政太社長は、中央大ビジネススクール（東京都）で講義した。浜通りに産業集積を目指す福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想を紹介し、南相馬にはロボット・ドローン関連産業が育つ環境が整っていると強調した。

猪苗代町にゆかりの現状を語った。

ある中央大大学院戦略経営研究科の吉田愛准教授（弁護士）の講義の一環で、商社、金融、物流、ゼネコンなどに勤務する約二十人が聴講した。東京都出身の金田社長は、南相馬市に福島支社を置くまでの経過、世界でも例が少ない飛行艇型ドローンの開発を進めている

ト産業が発展する。南相馬はドローンの認知度が高く、実験しやすい環境にある」と述べた。

さらに、福島民報社主催の第五回ふくしま経済・産業・ものづく

り賞（ふくしま産業賞）で特別賞を受けたことを報告し、「受賞を励みにやっていきたい」と誓った。

福島民報で「商工が生み出す」を連載している中央大大学院戦略経営研究科の杉浦直彦教授が橋渡しし、金田社長の講義が実現した。

NTTドコモがグアムで行った次世代移動通信システム「5G」

の実験に、南相馬市の製造業者三社とともに作り上げたドローンで参加した経緯を披露。機体の完成には、ものづくりの熟練の技が必要だったと明かし、「（地元企業が）経験を積んでいけばロボッ



南相馬でのドローン産業の可能性について講義する金田社長